



草津 PA と連携した 滋賀県南部エリア活性化基本構想

令和5年6月 草津市

構想策定にあたって

滋賀県南部の草津パーキングエリア(PA)周辺は、名神・新名神高速道路、山手幹線等の広域的な道路ネットワークに加え、医療・福祉・学術・産業等の様々な機能を有するびわこ文化公園都市があり、市内外から多くの人々が訪れる恵まれた環境を有しています。

また、今後は新名神高速道路や山手幹線の延伸、平野南笠線の事業が予定されるなど、当該エリアの持つポテンシャルはさらに高まる見込みです。

草津 PA 周辺エリアのポテンシャルを最大限に活用し、その効果を広く波及させることによって、滋賀県南部エリアの活性化を推進するため、本構想を策定しました。

対象エリアと上位・関連計画

本構想の対象エリアは、草津市南部の草津 PA 周辺とします。

対象エリアに関連するまちづくりの上位・関連計画としては、「南草津エリアまちづくり推進ビジョン」と、「びわこ文化公園都市将来ビジョン」が挙げられます。これらの計画で示すまちづくりにおいて、「交流や回遊性」が求められています。

位置図



南草津エリアまちづくり推進ビジョン

(令和3年度策定)

<目標>

**大学・企業・地域の活力が
持続的にあふれだすまち**

<基本方針>

～大学や企業等の立地集積を生かした産官学連携による魅力あるまちづくりの推進～

<目標>

**誰もが豊かな環境と利便性を享受し
安全・安心に住み続けられるまち**

<基本方針>

～豊かな地域資源を生かした安全で快適な住環境形成と地域主体によるまちづくりの推進～

<目標>

**充実した都市空間・交通環境で多様な
交流が生まれるにぎわいのあるまち**

<基本方針>

～びわこ文化公園都市周辺における拠点性の強化と適切な都市機能の配置の推進～

びわこ文化公園都市将来ビジョン

(令和4年度改定)

<将来像>

県内外の人々が交流する場
文化・芸術を創造する場
持続可能な社会へ挑戦する場
歴史とくらしを紡ぐ場
いのちと健康を支える場
コミュニティを育む場

<プラットフォーム¹⁾>

○移動の自由

- ・多様な移動手段により、誰もが「行きたい場所へ」「行きたい時に」「自由に移動」できるエリア
- ・新たなモビリティの導入可能性を検討するエリア

○理解の共有

- ・知りたい情報へ容易にアクセスでき、瞬時に情報が共有・利活用されるエリア
- ・社会の変化や技術革新の進展に対応し、ICT およびデータの利活用を推進するエリア
- ・人と人とのつながりを大切にし、誰もが情報を発信・共有・利活用できるエリア

1) プラットフォーム: びわこ文化公園都市共通の課題であり、全ての将来像に関わる公共交通、施設間移動、バリアフリーといった「移動」に関すること、情報発信・共有、広報など「情報」に関することに対処するための基盤

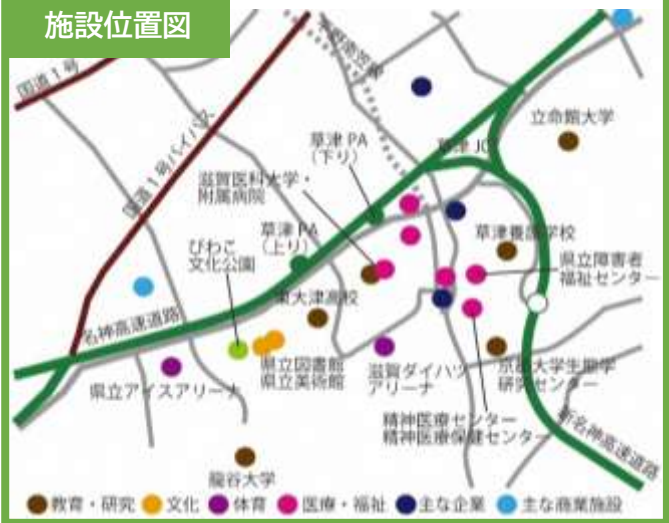
現状(対象エリアのポテンシャル)

対象エリアのポテンシャルとしては、多様な施設(大学、企業、病院・福祉施設等)や人口の集積、広域道路ネットワークである名神高速道路や県道等を含むことが挙げられます。

施設立地

- 立命館大学、龍谷大学、滋賀医科大学の3大学12学部が立地し、2万人以上が在籍している
- びわこ文化公園都市内には15を超える製造・物流などの企業が存在し、半径2km圏内では約2万人が従業している
- 滋賀医科大学附属病院(災害拠点病院に指定)など、800床を超える病床と多数の診療科が存在し、福祉施設も集積している
- びわこ文化公園は年間約30万人、県立アイスアリーナは年間約13万人、県立図書館は年間約2万人の利用があり、令和4年12月に滋賀ダイハツアリーナもオープンした
- 高速道路を利用すれば、大阪へは1時間半弱、京都へは40分程度、名古屋へは1時間半程度である

施設位置図



人口

- 約4.5万人が居住しており、大学の立地が多いため20代男性の人口が多くなっている
- JR草津駅、南草津駅の乗降者数は、県下1位、2位であり、エリアには多くのJR利用者が居住・滞在している

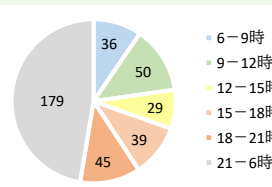


資料：JSTAT MAP

交通

- 名神高速道路草津JCT～瀬田JCT間の交通量は約12.3万台/日となっている
- 草津PA付近を平日300台以上、休日350台以上の高速バスが通過している

▼高速バス通過台数(休日)



防災

- 広域道路ネットワークの結節点である草津JCTがある
- 立命館大学(BKC)は市の防災輸送拠点として位置付けられている
- 草津PAは国の「防災拠点自動車駐車場」として位置付けられている
- 確認された活断層がない他、浸水リスクも低いなど、相対的に災害リスクが低い

現状(対象エリアの問題点)

対象エリアの問題点として、利便・交流施設の少なさ、慢性化した渋滞やそれによるバスの定時性低下などが挙げられます。

施設立地

- 対象エリアには、日常的に利用できる飲食・物販等の立ち寄り施設、スーパー等の利便施設、交流施設が少ない

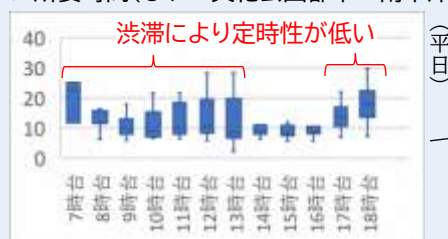
防災

- びわこ文化公園都市内に避難者や広域支援部隊の支援機能の位置付けが無い

交通

- 国道1号や南草津駅周辺～対象エリア周辺の渋滞が慢性化している
- 朝夕を中心に道路渋滞によりバスの定時性が損われ、サービス水準の低下が生じている
- 路線バスによる回遊性が低い

▼バス所要時間(びわこ文化公園都市→南草津駅方面)



資料：ETC2.0プローブデータ

▼周辺の旅行速度



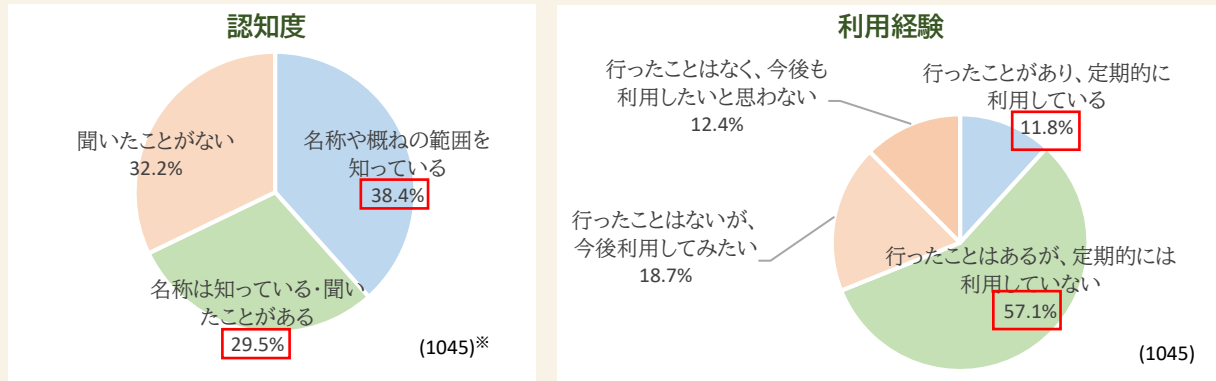
資料：滋賀県渋滞対策協議会

市民の認知・利用状況

令和5年3月に、草津市在住の市民の方々から 3,000 人を無作為抽出し、対象エリアの認知度・利用経験や利用頻度・移動手段・滞在時間、問題点、必要だと思う機能等についてアンケート調査を実施しました。

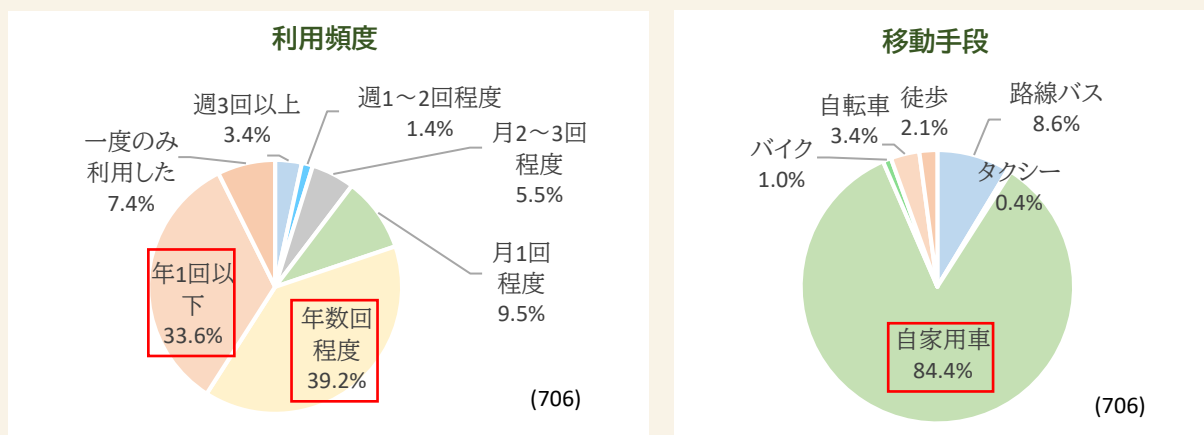
びわこ文化公園都市の認知度・利用経験

びわこ文化公園都市の認知度については、名称や概ねの範囲まで知っている方、名称のみ知っている・聞いたことがある方を併せて約7割程度となっており、3割の方には認知されていません。利用経験については、利用経験がある方が約7割を占めていますが、定期的に利用している方は少なくなっています。



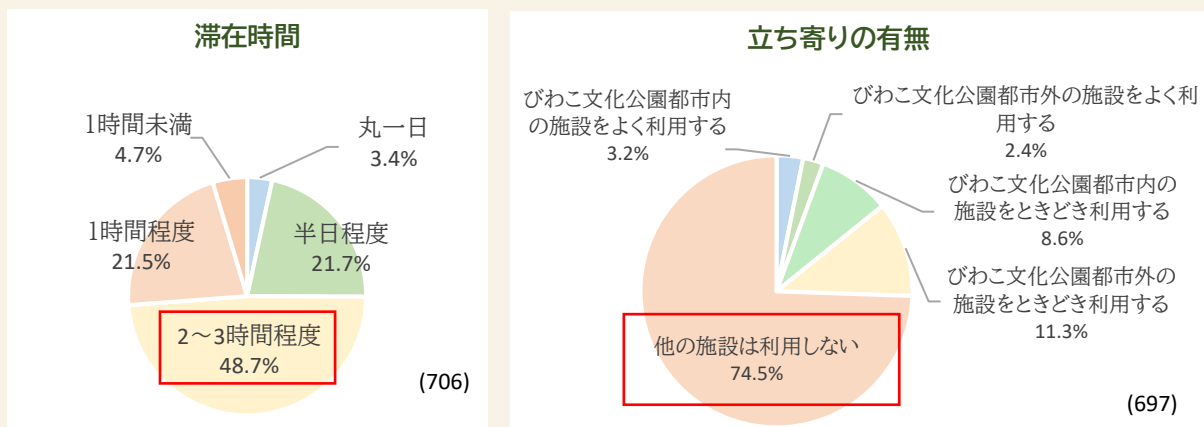
びわこ文化公園都市の利用頻度・移動手段

びわこ文化公園都市の利用経験がある方に利用頻度を聞いたところ、年数回程度と年1回以下で8割程度を占めており、利用頻度は少なくなっています。また、移動手段は、自家用車が大半を占めています。



びわこ文化公園都市利用時の滞在時間・立ち寄りの有無

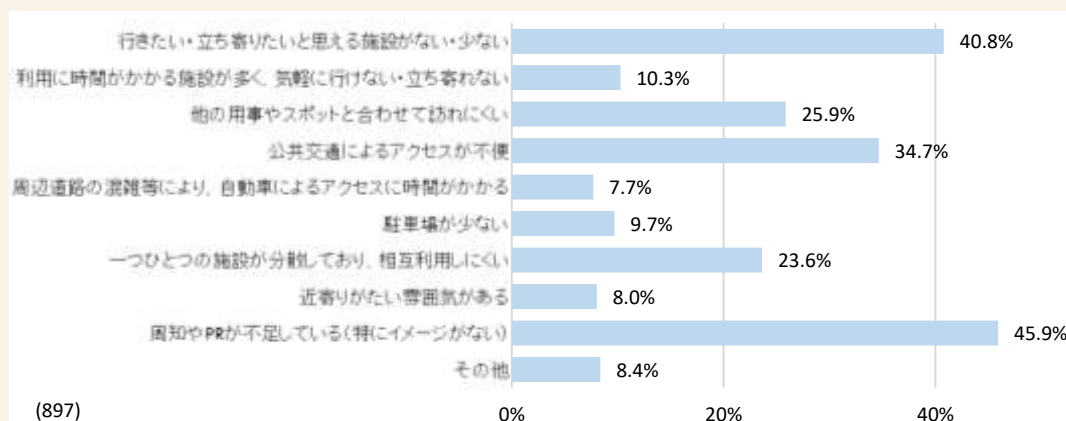
利用の際の滞在時間は、2～3時間が最も多く、半日以下がほとんどを占めています。また、立ち寄りの有無については、7割以上が「他の施設は利用しない」と回答しています。



※()内は有効回答数

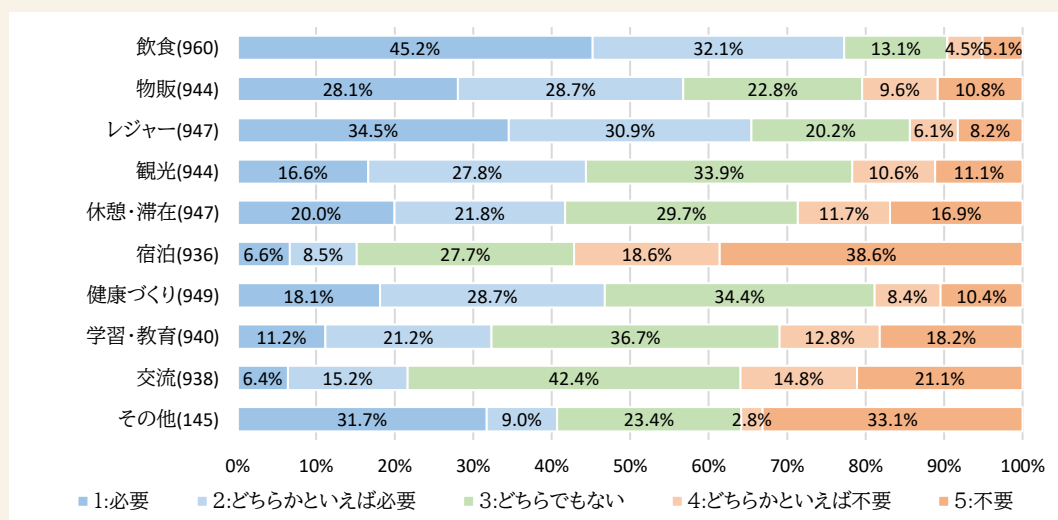
びわこ文化公園都市周辺の問題点

びわこ文化公園都市周辺の問題点としては、「周知や PR が不足している」が最も多く、次いで「行きたい、立ち寄りたと思える施設がない・少ない」「公共交通によるアクセスが不便」等が多くなっています。



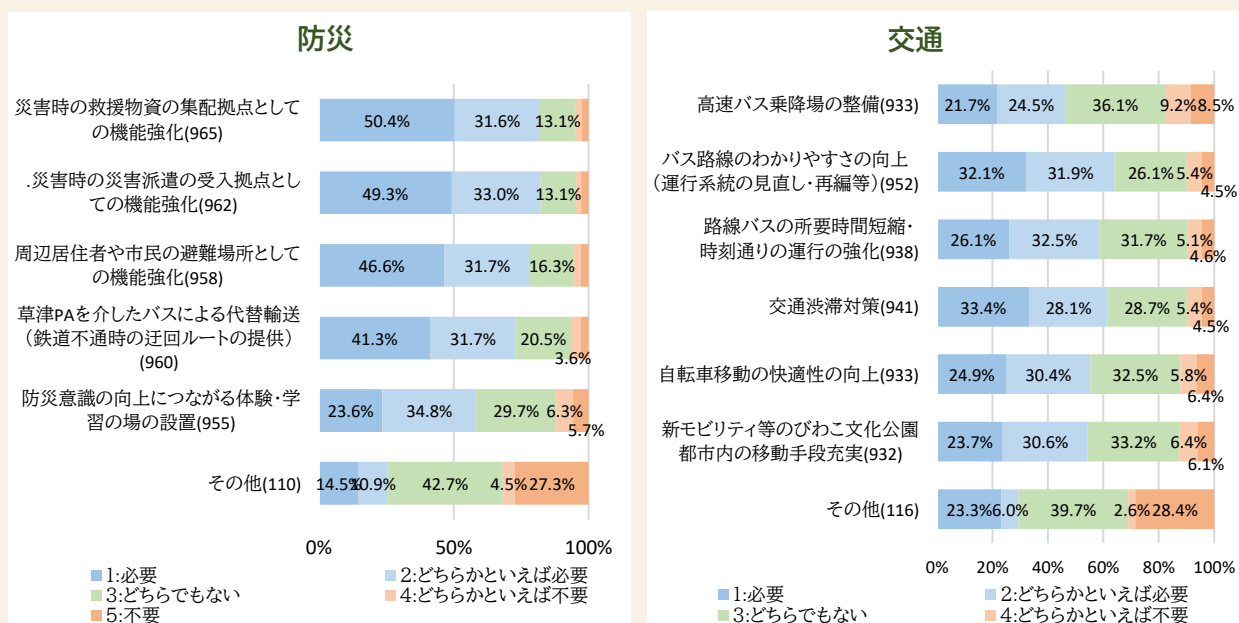
びわこ文化公園都市周辺に必要なと思う機能

びわこ文化公園都市周辺に必要な機能としては、飲食や物販、レジャー等が多くなっています。



防災・交通に関する取組で必要なもの

防災に関する取組としては、救援物資の集配拠点・災害派遣の受け入れ拠点・避難場所としての機能強化や、草津 PA を介した代替輸送についても多くの方が必要と答えています。交通については、バス路線の分かりやすさの向上や交通渋滞対策について、必要と答えた方が多くなっています。



※()内は有効回答数

解決に向けた方向性

現状と市民の認知・利用状況から、対象エリアにおいては、施設や交通インフラ等のハード面は充実しており、大学や企業に関連した多くの滞在者はいるものの、運営体制や交通環境等の課題により、連携や交流が少なく、エリアの持つ魅力やポテンシャルを最大限に活用できていないとも言えます。そこで、上位計画を踏まえ、「にぎわい・活力」「安全・安心、防災」「交通・交流」の3つの視点から、対象エリアの持つポテンシャルと課題を整理し、連携拠点の創出による解決に向けた方向性として取りまとめました。

エリアのポテンシャル	<ul style="list-style-type: none"> ●約4.5万人が居住している ●立命館・龍谷・滋賀医科大学の3大学12学部が立地し、2万人以上が在籍している ●製造・物流をはじめ多様な業種の企業が集積し約2万人が従業している ●びわこ文化公園には年間約30万人が来園している 	<ul style="list-style-type: none"> ●滋賀医科大学附属病院をはじめ、800床を超える病床と多数の診療科が存在している ●エリア周辺には多様な福祉施設が集積している ●確認された活断層はなく、浸水などの災害リスクが低い ●広域な道路ネットワーク結節点があり、救援活動や物資輸送等、災害時対応の拠点となりえる 	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通・高速道路ともに、大阪へは1時間半弱、京都へは40分程度、名古屋へは1時間半程度の距離である ●草津PA付近の名神高速道路は約12万台/日の交通量があり、PAとしての大きさは名神高速道路でも有数である ●草津PA周辺には平日で300台以上、休日で350台以上の高速バスが通過している
エリアの課題	<p>にぎわい・活力</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼日常的に利用できる便利施設、飲食・物販等の立ち寄り施設や交流施設が少ない ▼施設の利用頻度が少ない ▼来訪時の目的施設以外への立ち寄りが少なく、滞在時間が短い ▼広域的な公共施設が多数立地も、利用者数は伸び悩んでいる 	<p>安全・安心・防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼病院や福祉施設等、防災施設と連携できる機能は多数立地しているが、対象エリアとして避難者や広域支援部隊の受け入れ体制ができていない ▼JR琵琶湖線を利用した通勤・通学者が多いが、災害等によるJR不通時に代替の公共交通手段(リダンダンシー⁴⁾)がなく、帰宅困難者の発生が危惧される 	<p>交通・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼朝夕を中心に国道1号や南草津駅周辺の渋滞が慢性化し、周辺都市への通勤・従業員によるマイカー通勤に影響を与えている ▼朝夕を中心に道路渋滞によりバスの定時性が損なわれ、サービス水準の低下が生じている ▼複数の事業者によりバス路線が乗り入れているが、需要に対して本数が限られており、バス車両内が混雑している ▼路線バスによるエリアの回遊性が低い

解決の方向性

連携拠点の創出

「にぎわい・活力」の創造

▶連携、交流

施設間の連携と交流を促進し、多様な人材によるエリアマネジメント²⁾を進める

▶滞在、魅力

魅力あるサードプレイス³⁾を設け、施設利用者の滞在時間を拡大し、魅力あるエリアの創出を進める

「安全・安心・防災」の充実

▶広域支援

非常時の安全・安心を支える広域支援部隊の受け入れ体制づくりを進め、防災機能の強化を図る。

▶リダンダンシー

広域交通・輸送のリダンダンシーの確保により、災害に強い都市構造の構築を進める

「交通・交流」の向上

▶道路交通

公共交通の利便性向上により移動手段の転換を進め、交通混雑の緩和を図る

▶公共交通

高速バス⇄路線バス⇄JRの利用環境の充実による公共交通の利便性の向上を図る

▶エリア回遊

びわこ文化公園都市施設間の回遊性向上を図る

2) エリアマネジメント: 地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取り組み

3) サードプレイス: 自宅(=ファーストプレイス)や職場・学校(=セカンドプレイス)とは異なる、居心地がよくくつろぐことのできる第三の居場所。

4) リダンダンシー: 「冗長性」、「余剰」を意味する英語であり、自然災害等による障害発生時に、一部の区間の途絶や一部施設の破壊が全体の機能不全につながらないように、予め交通ネットワークやライフライン施設を多重化したり、予備の手段が用意されている様な性質を示す。

将来ビジョンと基本方針

連携拠点の創出による解決の方向性を踏まえ、対象エリアにおける将来ビジョンと基本方針を以下のように定めます。

将来ビジョン

滋賀県南部エリアの新たな玄関口として、交通環境が充実し、多様な主体による交流が生まれ、その活力が広域に波及するにぎわいと安全・安心を実感できるエリア

基本方針

将来ビジョンの実現に向けて取り組む基本方針を次の3つのとおり定め、草津 PA と連携し、それぞれに沿った具体的な取組により、にぎわいの創出、安全・安心の享受、交通環境の充実を図る



「にぎわい・活力」の創造

地域、大学、企業が交流し、地域外からの訪問者も集うサードプレイスによりにぎわい創出

- 【連携・交流】エリアの住民、大学、企業の連携・交流を促進する機能の強化により、多様な人材が集積・交流
- 【滞在・魅力】エリアの玄関口形成(地域情報発信・立ち寄り機能の強化)により、びわこ文化公園都市を中心としたエリアの魅力向上・地域経済への波及

「安全・安心・防災」の充実

集積した医療・福祉、道路ネットワークを生かした安全・安心の享受

- 【広域支援】医療・福祉機能やびわこ文化公園と連携し、草津 PA と一体となった広域的防災機能の強化により、非常時の広域の安全・安心が向上
- 【リダンダンシー】高速バスを活用した広域公共交通のリダンダンシーの確保により、JR 不通時の移動手段を確保

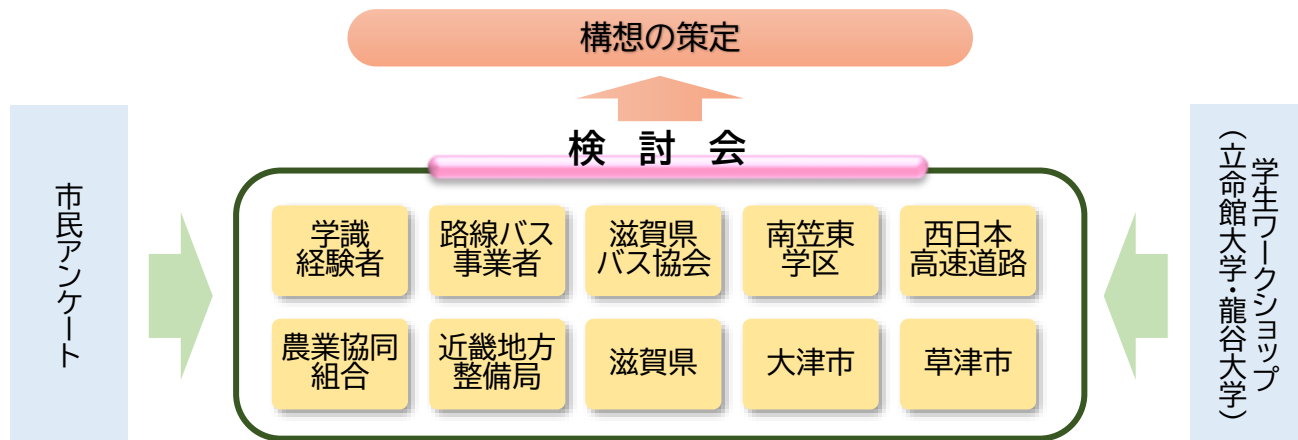
「交通・交流」の向上

新たな玄関口としての公共交通の利便性向上による、エリア及び周辺の交通環境の充実

- 【道路交通】駅および周辺道路に集中する交通量の削減・転換により、渋滞が緩和(公共交通の定時性向上)、生活道路の安全性が強化
- 【公共交通】路線バスから JR への利用環境の充実、高速バス活用(新たな移動手段確保)により、公共交通利便性・快適性が向上
- 【エリア回遊】地域内回遊手段の確保による回遊性向上、エリアの活性化

構想の策定体制

本構想の策定にあたり、各分野の関係機関からなる「草津 PA と連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会」(以下「検討会」)を設置し、産学公民の連携のもと、以下の体制により策定しました。



基本構想の実現に向けて

基本構想で示す将来ビジョンの実現のために、検討会等でいただいた下記ご意見を踏まえ、今後、基本計画において具体的な検討を進めてまいります。

にぎわい・活力

- 地域の交流機能
- 大学間連携機能
- 産官学交流機能
- びわこ文化公園エリアとの連携機能
- 飲食、物産、レジャー機能
- 地域情報発信機能、休憩機能



安全・安心・防災

- 医療・福祉施設と隣接した地域・広域防災拠点機能
- 災害時の高速バスでの輸送機能



交通・交流

- 名神高速道路草津 PA と連携した交通ターミナル機能
- 路線バス網の強化
- びわこ文化公園都市・周辺地域への路線バス・自動運転・MaaS⁵⁾などによる回遊手段の提供拠点機能



5)MaaS:「Mobility as a Service」の略。地域住民や旅行者一人ひとりのトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

SDGs について

草津市では、総合計画において、SDGs(= Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))という世界共通のものさしを用い、多様なステークホルダーとの連携の強化や目標の共有を図りながら、取組をより一層進めることで、SDGs の目的である持続可能なまちの実現を目指します。

本構想は、SDGs の 17 の目標のうち、右記に示す目標達成に資するものであると考えています。



草津市 都市計画部 都市地域戦略課

〒525-8588 滋賀県草津市草津三丁目 13 番 30 号

TEL 077-561-6931 FAX 077-561-2486

Email toshichiiki@city.kusatsu.lg.jp
